

低平地研究会の活動

平成30年度低平地研究会活動実績

月次	日	時	内 容	備 考
4 月	平成30年 4 月17日(火)	13：00～15：00	第 1 回幹事会	第 1 回低平地研究会運営委員会の議案について
	平成30年 4 月20日(金)	10：30～12：00	第 1 回運営委員会	(1)平成29年度活動報告について (2)平成29年度決算について (3)平成30年度活動計画（案）について (4)平成30年度予算（案）について (5)役員の交代（案）について (6)規約改正（案）について
		13：00～15：00	活動報告会 【特別講演】	「佐賀平野における開発主体－集落・館・城－」 講師：宮武正登 氏 (佐賀大学全学教育機構教授・地域学歴史文化センター長)
		15：00～16：30	活動報告会 【活動報告】	平成29年度各部会活動報告 ・運営委員長報告 ・地域創生部会報告 ・基盤整備部会報告 ・歴史・文化部会報告 ・都市空間部会報告 ・環境部会報告
		18：00～20：00	会長懇談会	・特別講演会講師を囲んで
5 月	—	—	成果普及	(部会活動冊子配布・特別会員、個人会員会費請求書発送準備) (会員名簿整理)
6 月	平成30年 6 月13日(水) 平成30年 6 月14日(木)	10：00～16：00	成果普及	SAGA 建設技術フェア2018（後援） (マリトピア)
	平成30年 6 月19日(火)	13：00～14：30	部会連絡調整会議(第一回) (佐賀大学)	平成30年度部会活動予定全般 「低平地研究」編集方針
	平成30年 6 月29日(金)	—	ニューズレター発行	No.92
7 月	平成30年 7 月15日(日) 平成30年 7 月16日(月)	—	①部会活動（都市空間）	「クリエイティブディスカッション 水辺とまちづくり」(協力) オランダハウス（佐賀市呉服元町）主催：さがクリークネット 「研究懇談会・低平地の水網とまちづくり」主催企画 The Study Topics for the Future of Waternetwork-city and its Urban Planning
	平成30年 7 月20日(金) ～28日(土)	—	②部会活動（都市空間）	環アジア国際セミナー2018の共催 佐賀県鹿島市浜町〔肥前浜宿〕
	平成30年 7 月31日(火)	—	③部会活動（地域創生）	中村與右衛門屋敷保存会（共催） 佐賀県鹿島市七浦
8 月	平成30年 8 月28日(火) ～29日(水)	13：30～17：00	④部会活動（地域創生）	見学会「佐賀の歴史」 共催：久留米大学地域連携センター 後援：青森中央学院大学
9 月	平成30年 9 月12日(水)	—	ニューズレター発行	No.93
10 月	平成30年10月 1 日(月)	16：00～17：30	⑤部会活動（環境）	講演会「世界の低平地～気候変動によるナイル川水系及びエジプトデルタの水問題」(Major Water Issues Facing Nile River System and Delta of Egypt under Changing Climate) 講師：Dr. Sameh Ahmed Kantoush (京都大学 防災研究所附属 水資源環境研究センター准教授) 佐賀大学理工学部 6 号館 2 F 多目的セミナー室
11 月	平成30年11月12日(月) ～16日(金)	—	④部会活動（環境）	ASIAN 協働研修プログラム（ASIAN Collaborative Seminar Program）の支援 特別講義およびテクニカルツアー
	平成30年11月28日(水)	10：30～12：00	部会連絡調整会議(第二回) (佐賀大学)	CPD 技術講習会実施機関 ID 取得について 各部会活動報告 「低平地研究 No.28」論文テーマ・寄稿について パンフレット・ウェブサイトリニューアルについて
12 月	平成30年12月18日(火)	—	ニューズレター発行	No.94

低平地研究会の活動

月次	日 時	内 容	備 考
2 月	平成31年 2 月13日(水)	10：30～12：00 部会連絡調整会議(第三回) (佐賀大学)	活動報告会準備(新年度予算検討・2019年度活動計画) 幹事会・運営委員会準備(報告内容・日程調整) (決算書・監査準備) 編集委員会：低平地研究No.28編集
	平成31年 2 月16日(土)	10：00～15：00 ⑤部会活動(地域創生)	勉強会「筑後川と有明海の歴史と小石原ダム建設」 甘木小石原ダム建設現場見学 講師：水資源機構事務 共催：久留米大学地域連携センター
	平成31年 2 月21日(木)	15：00～16：30 ⑥部会活動(歴史・文化)	講演会「佐賀藩の鷹狩りと低平地」 講師：伊藤 昭弘氏(佐賀大学地域学歴史文化研究 センター副センター長) 佐賀大学附属図書館4F会議室
	平成31年 2 月22日(金)	14：00～18：00 ⑦部会活動(都市空間)	「佐賀大学コミュニティデザインカフェ CDC in 鹿 島」の共催 内容：「地方都市における公共建築の可能性」 ○第一部 講演会「地域と建築／人が人に、人が地 域に出会う場所をつくる」 講 師：建築家 古谷誠章 (新鹿島市民会館設計者／早稲田大学 教授) ○第二部 佐賀大学理工学部都市工学科・都市工学 ユニット演習公開講評会 主催：佐賀大学理工学部都市工学科、(一社)日本 建築学会九州支部佐賀支所 鹿島市エイブルホール
3 月	平成31年 3 月 9 日(土)	15：00～17：30 ⑧部会活動(都市空間)	シンポジウム「古民家の明るい未来を展望する」の共催 講演会およびパネルディスカッション 主催：さがの住まいを考える会 ものづくりカフェこねくり家(佐賀市柳町)
	平成31年 3 月27日(木)	14：00～17：00 ⑨部会活動(基盤整備)	地盤工学講演会「セメント固化処理土の長期耐久性 と最近の研究動向」の共催 ○講演1：海水環境におけるセメント改良砂の劣化 特性の評価と劣化進行予測への展開 講師：九州大学准教授 石蔵 良平 氏 ○講演2：海水環境下における石灰・セメント処理 土の耐久性～劣化機構からその対策まで～ 講師：山口大学講師 原 弘行 氏 主催：(公社)地盤工学会九州支部佐賀地区、 共催：(一社)佐賀県地質調査業協会 佐賀大学 菱の実会館

低平地研究会の活動

2019年度低平地研究会役員

2019年4月19日現在

役 職	役 員	所 属
会 長	西 村 平	(公財) 佐賀県建設技術支援機構 理事長
特別顧問	緒 方 耕 治	前低平地研究会会長 (元・佐賀県県土づくり本部長 現・西日本総合コンサルタント(株)技術管理本部長)
運営委員長	三 島 伸 雄	佐賀大学理工学部 教授
運営委員	古 賀 憲 一	佐賀大学 名誉教授
”	有 馬 隆 文	佐賀大学芸術地域デザイン学部 教授
”	大 串 浩一郎	佐賀大学理工学部 教授
”	藤 本 幸 司	国土交通省武雄河川事務所 所長
”	澤 田 斉 司	佐賀県産業労働部 部長
”	逢 坂 謙 志	佐賀県県土整備部 部長
”	落 合 裕 二	佐賀県県民環境部 部長
”	白 井 誠	佐賀市 副市長
”	松 尾 哲 吾	(一社) 佐賀県建設業協会 会長
”	副 島 孝 文	佐賀県土地改良事業団体連合会 専務理事
”	(西 村 平)	(公財) 佐賀県建設技術支援機構 理事長
幹 事 長	後 藤 隆太郎	佐賀大学理工学部 准教授
幹 事	横 尾 秀 憲	佐賀県県土整備部 副部長
”	武 富 将 志	佐賀市企画調整部企画政策課 課長
監 事	大矢野 栄 次	久留米大学経済学部 教授
”	高 取 樹 太	(株)エスジー技術コンサルタント代表取締役社長

※上記は2019年4月19日の運営委員会にて承認されました。

(任期2018年4月20日～2020年4月19日の2年間)

※氏名に下線の方は、今回新たに就任された役員

運営委員会・活動報告会の報告

平成30年4月20日(金)の午前10時30分から佐賀大学理工学部6号館2階多目的セミナー室において、平成30年度第1回低平地研究会運営委員会が開催されました。

今回の委員会では、定例議題として決算、予算が報告されたほか、会長および役員交代、情報の発信方法の改善、研究会の継続に関する説明、関係機関との連携強化などが議論されました。



宮武正登教授

運営委員会に引き続き、13時から活動報告会が開催されました。低平地研究会員や一般市民の方・学生が来場されました。特別講演会では、佐賀大学全学教育機構教授の宮武正登先生を講師としてお招きし、「中世の佐賀平野における開発主体—集落・館・城—」の題目でご講演いただきました。佐賀平野に存在した有力者の生活拠点を単位として、非排他的な屋敷からなる「散村」から、区画で仕切った屋敷からなる「集村」に変化を遂げたことなど、領主居館の発生と展開と、南里氏による河副荘の干潟開発、龍造寺氏が進めた労働力の結集と経営拠点の再活性化について説明されました。そして、新興領主が主導した開発事業を契機とする村の再編が行われるとともに、南北朝時代から室町時代にかけての政治動乱に乗じて、在地領主が急速に自立していき、「屋敷・館」が増殖・拡張して、最終的には、姉川城などにみられる「城」へ成長した例を説明されました。

その後に行われた活動報告会では、各専門部会から平成29年度のそれぞれの活動内容が報告されました。専門部会報告の冒頭に、三島伸雄運営委員長から引き続き低平地研究会の活動を行っていくことが述べられました。また参加者からは、低平地研究会の活動を、会員以外の地域の方にももっと宣伝してほしいとの要望があり、研究会としても積極的に広報活動を行っていくことが確認されました。最後に、平成30年度より会長に就任する西村平新会長（佐賀県建設技術支援機構理事長）より挨拶がありました。



西村平 新会長の挨拶

基盤整備専門部会

■平成30年度活動報告

地盤工学講演会「セメント固化処理土の長期耐久性と最近の研究動向」の共催

日時：平成31年3月27日(水)14:00～17:00

場所：佐賀大学 菱の実会館

内容：講習会

○講演1：海水環境におけるセメント改良砂の劣化特性の評価と劣化進行予測への展開

講師：石蔵 良平氏（九州大学准教授）

○講演2：海水環境下における石灰・セメント処理土の耐久性～劣化機構からその対策まで～

講師：原 弘行氏（山口大学講師）

参加者：18名

主催：（公社）地盤工学会九州支部佐賀地区

共催：（一社）佐賀県地質調査業協会

平成31年3月27日(水)に佐賀大学の菱の実会館において「セメント固化処理土の長期耐久性と最近の研究動向」をテーマとした講習会を開催しました。県内外から18名が参加しました。この講習会には、当該研究分野の第一線で活躍する九州大学の石蔵良平先生と山口大学の原弘行先生を招いて、最新の研究成果や研究動向などについて講演いただきました。

石蔵先生の講演では、独自に開発するセメント系固化材を使った固化砂の劣化特性について室内と沿岸部地中状況を模擬した現場実験の事例と、簡便な劣化予測法の紹介がありました。劣化予測では実験結果をうまく再現できるが、予測に用いるパラメータの決定方法については更なる検討が必要であることが説明されました。また、原弘行先生の講演では、海水環境下でのセメントあるいは石灰処理土の劣化のメカニズムや劣化対策として劣化の進行を大幅に遅延させる考え方と具体的な方法の検討事例が紹介されました。

いずれの講演も海水面上昇に起因する地下水の塩水化への対応を念頭において研究が進められています。海面上昇の影響を強く受ける低平地においては大変重要な課題と考えられます。今回のテーマに関連した固化処理土の研究事例は未だ少なく、多くの知見を積み重ねる必要があります。今後のこの研究分野の進展を期待しています。



石蔵先生の講演の様子



原先生の講演の様子

低平地研究会の活動

■2019年度活動計画

- ・基盤整備技術に関する勉強会・見学会
- ・「これからの低平地と基盤整備」をテーマとした講演会

都市空間専門部会

■平成30年度活動報告

- (1) 「クリエイティブディスカッション 水辺とまちづくり」への協力

日 時：平成30年7月15日(日)13：30～

場 所：オランダハウス

内 容：講演および討論会

参加者：100名以上

7月15日の13：30から、さがクリークネットの主催により「クリエイティブ・ディスカッション 水辺とまちづくり」と題した講演会ならびに討論会が行われました。

講演会は2部構成で、第1部の冒頭ではさがクリークネット会長の川崎氏による佐賀市のクリーク現状と活用構想を皮切りとして、笠真希博士、フランシェ ホイメイヤー博士（オランダ・デルフト工科大学）、後藤隆太郎博士（佐賀大学理工学部）によってオランダならびに佐賀におけるクリークの成り立ち、利用方法などが講演されました。第2部では両国のクリークを比較しつつ、クリークと共存しつつ、魅力的な街づくりを行えるかが議論されました。

多くの方が参加されたこともあり、さまざまな質問や意見が寄せられました。その中には、佐賀のクリークの成り立ちについてご存じの方も多くおられ、その一方でクリークの魅力を伝えられるよう活動されている方からの意見もありました。多岐の視点から意見交換をもとに、これからは市民のみならずクリークへの関心を持ってもらうことが結論の一つとして得られました。このような活動が今後の佐賀の発展へ寄与することが期待されます。



オランダハウスでの講演会の様子

「研究懇談会・低平地の水網とまちづくり」主催企画
The Study Topics for the Future of Waternetwork-city
and its Urban Planning

日 時：平成30年7月16日(月)

場 所：佐賀大学理工学部3号館1F会議室

内 容：研究懇談会

参加者：12名

前日に引き続き、7月16日にはフランシェ ホイメイヤー博士を講師としてお招きし、佐賀大学の研究者および学生との研究懇談会が開催されました。冒頭の講演ではオランダの水路の役割や防災計画について、特に「レジリエンス」「協調的計画」「自然に依拠する解法」など、現代的な論点から解説がありました。

後半の議論では、同国は国土全体が低平地に立地し、永年に渡り水との戦いが繰り返されてきたこと、その歴史の中から現在の合理的な治水管理や水辺の市民利用が生まれてきたこと、また、オランダと佐賀の差違や、同国の優れている文化をどのように佐賀へ活かせるかなど、参加者を交えて有意義な議論がなされました。昨今の課題である防災や気候変動、また、水辺利用の各視点からのさらなる研究が期待されます。

- (2) 「環アジア国際セミナー2018」の共催

日 時：平成30年7月20日(金)～7月28日(土)

場 所：佐賀県鹿島市浜町〔肥前浜宿〕

参加者：78名

主 催：佐賀大学理工学部都市工学科・（一社）日本建築学会九州支部佐賀支所

7月20日～28日にかけて、（一社）日本建築学会九州支部佐賀支所主催により佐賀大学および鹿島市肥前浜宿において環アジア国際セミナー2018を開催しました。2014年から継続的に開催しており、本年度は5回目の開催となりました。タマサート大学（教員1名＋学生8名・タイ）、チェンマイ大学（教員1名＋学生8名・タイ）、韓国交通大学校（教員1名＋学生8名・韓国）、カザフ高等建築アカデミー（教員2名＋学生7名・カザフスタン）、アイントホーフェン工科大学（教員2名＋学生10名・オランダ）、ウィーン工科大学（学生6名・オーストリア）、佐賀大学（教員3名＋学生21名）の合計78名が参加しました。



「River side renovation of traditional area with heritage」と題して、重要伝統的建造物群保存地区である肥前浜宿から祐徳稲荷神社までの浜川沿いのエリアを対象として、パブリックスペースをいかに創出するか、というテーマのもと、肥前浜宿の地元住民や鹿島市の多大なる協力を得て、茅葺町家などに民泊して実施されました。今回は関連事業として「次世代の文化的資源活用まちづくり」シンポジウム〈これからの町並み活性化とインバウンド効果について〉を開催し、タイ・タマサート大学 Iamtrakul Pawinee 准教授、カザフスタン・カザフ高等建築アカデミー Ainur ZHUBANOVA 助教、オランダ・アイントホーフェン工科大学 Musch Marcel Willem 講師、NPO 九州さがプロジェクト・原田彰氏による水辺デザインに関する講演をしていただき、活発な意見交換を行いました。今後のグローバル社会に対応すべく文化的背景の異なる学生間の外国語によるコミュニケーション能力・プレゼンテーションスキル・リーダーシップ能力などの向上に資する有意義な機会となったのではないかと思います。



(3) コミュニティデザインカフェ in 鹿島の共催

日 時：平成31年2月22日(金)
場 所：鹿島市生涯学習センター・エイブルホール
参加者：98名
主 催：佐賀大学理工学部都市工学科
共 催：低平地研究会
(一社)日本建築学会九州支部佐賀支所、鹿島市

2月22日、佐賀大学都市工学科主催により、鹿島市生涯学習センター・エイブルホールで、「地方都市における公共建築の可能性」というテーマでコミュニティデザ

インカフェを開催しました。講師には、早稲田大学教授で新鹿島市民会館設計者に選定された建築家・古谷誠章先生をお招きしました。

第1部では、「地域と建築／人が人に、人が地域に出会う場所をつくる」と題して古谷先生にご講演いただきました。古谷先生が様々なところで関わられたプロジェクトの紹介をしていただきながら、人と人、人と地域の思いがぶつかりながら整備されていった施設や空間について語っていただきました。人の思いや願いを読み取りつつ、これこそという知恵を振り絞ることの素晴らしさを知ることができました。

第2部では、佐賀大学の建築を学ぶ学生有志による鹿島市立浜小学校の設計提案の発表とその講評を行いました。エイブルホールのステージの上が講評空間になり、学生達もほぼ全員が壇上に上がって古谷先生の講評に聞き入りました。鋭く質問と意見を切り込まれ、学生達も納得の表情。まだまだ提案内容に甘さがあることを実感することができ、地域に根ざす建築の難しさと楽しさを知ることができたひと時でした。

会場には、鹿島市や市外から一般市民や専門家などの聴講者を多く迎えることができ、低平地研究会における都市空間部会としても、地域に貢献できた機会であったと思います。



(4) シンポジウム「古民家の明るい未来を展望する」の共催

日 時：平成31年3月9日(土)15:00~17:30
場 所：ものづくりカフェこねくり家
参加者：45名
主 催：さかの住まいを考える会
共 催：低平地研究会都市空間部会・NPO 法人地域文化財研究室まちのつぎて

基調講演として、農村景観や茅葺民家の保全活用に取り組む神戸市住宅都市局建築指導部建築安全課の松添高次氏をお迎えし、「こうべ茅葺トリセツ」制作の経緯と意義などを説明いただきました。茅葺をはじめとする古建築を単に既存不適格などと看過するのではなく、有効な資源として活用を促すに至った近年の思考、そのためのデザインを含む発信方法、その地域への波及効果など、茅葺民家や「ヨシ」を有する佐賀や低平地において刺激的かつ有意義な内容でした。

また、後半のパネルディスカッションでは、NPO 法

低平地研究会の活動

人地域文化財研究室まちのつぎで：江島文氏から城下町佐賀の町中において今なお散見される民家の悉皆調査の結果と今後の活用可能性について、次いで、ie工房 弘祐：鈴山弘祐氏からは海外を含む佐賀県内外での各種の民家再生の実践を紹介いただきました。さらに、room design factory：野口龍司氏から古民家を事務所兼ギャラリーとした活用実践など、建物を尊重することの意味や方法について解説をいただき、一級建築士事務所スモコト設計：満原早苗氏からは建物の新たな価値を創出する改修手法や地域の素材や風土を生かした建築実践を紹介いただきました。

上記と関連して、司会の宮原真美子氏（佐賀大学理工学部都市工学科）やモデレーターの後藤隆太郎氏（同上）などからのコメントを含み、地域の素材や古民家活用の今後の展開にむけて有意義な議論、また、測上貴由樹氏（同上）から主催団体の古民家活動支援の取り組み、さらには参加者を交えて情報共有がなされ、シンポジウム後の懇親会を含め古民家のみならず地域の建築のあり方についても活発な意見交換がなされました。



(5) 冊子刊行

「環アジア国際セミナー 2018」報告書

■2019年度活動計画

- ・環アジア国際セミナーの開催（共催）
- ・コミュニティデザインカフェの開催
- ・低平地の都市空間に関する研究成果公開またはシンポジウム等の開催

環境専門部会

■平成30年度活動報告

- (1) 講演会『世界の低平地～気候変動によるナイル川水系及びエジプトデルタの水問題（Major Water Issues Facing Nile River System and Delta of Egypt under Changing Climate）』

日 時：平成30年10月1日(月)16：00～17：30

場 所：佐賀大学理工学部6号館2F多目的セミナー室

講 師：Dr. Sameh Ahmed Kantoush

（京都大学 防災研究所附属 水資源環境研究センター准教授）

参加者：26名

平成30年10月1日(月)に環境専門部会の「世界の低平地」シリーズの第4回講演会、「気候変動によるナイル川水系及びエジプトデルタの水問題（Major Water Issues Facing Nile River System and Delta of Egypt under Changing Climate）」が開催されました。京都大学防災研究所附属水資源環境研究センター准教授である Dr. Sameh Ahmed Kantoush をお招きしました。

ナイル川河口域の低平地における水資源及び水環境の状況、そして気候変動の影響に対する水害対策や総合水資源管理に関する日本・エジプト共同プロジェクト（JE-HydroNet）についてご紹介いただきました。特にエジプトの水資源、農業用水・農地、沿岸海域において気候変動の影響が懸念されています。また、エジプトの水問題の対策としてダム・河川管理に土砂及び堆積物の管理を考慮する必要があります。日本の堆積物管理をエジプトで活用する計画も進めているそうです。低平地研究会の会員及び佐賀大学の関係者から合計26名が参加しました。質疑タイムでは参加者によりナイル川の水問題に関する議論及び意見交換がなされました。来年も世界の低平地講演会のご参加をお待ちしております。



写真-1 Sameh Ahmed Kantoush 講師



写真-2 講演会の様子

(2) ASIAN 協働研修プログラム (ASIAN Collaborative Seminar Program) の支援

日 時：平成30年11月12日(月)～16日(金)

場 所：佐賀大学

参加者：佐賀大学大学院修士課程学生

(日本人：5名、留学生：7名)

ベトナム カントー大学

(学部生：3名、講師2名)

環境部会は本学の理工学部都市工学科が主催した ASIAN 協働研修プログラムの支援を行いました。同プログラムは低平地に着目した社会基盤整備や環境保全に関わる研究・学問の必要性をより理解することを目的としています。また、アジア諸国の研究者、学生と協働により開催することで、各地域における課題の共通性と差違を理解し、国際性のある人材育成に繋がります。低平地技術の研究開発を佐賀発として世界へ向けて発信すること、そして発信できる人材は極めて重要であることから、環境専門部会から活動を支援しました。

平成25年3月に開催した第1回の協働講義プログラムを始めとして、関連大学と連携により継続的に活動を行っており、今回はより入門性を高めた短期研修としてプログラムとして実施しました。参加者は本学大学院工学系研究科都市工学専攻の日本人学生5名と環境・エネルギー科学グローバル教育プログラム (PPGA) から留学生7名、そしてベトナム南部にあるカントー大学から学生3名に加え、Le Gia Lam 博士、Tran Van Ty 博士を講師として招へいしました。プログラムでは、4つの低平地に関する特別講義が招へい講師らと佐賀大学から日野剛徳教授、三島悠一郎講師により行われました。その後、テクニカルツアーとして、巨勢川調整池、佐賀市下水浄化センター、有明海沿岸道路工事事務所、株式会社ワイビーエムを訪れました。また、プログラムの適所ではワークショップを実施し、参加者が積極的に発言、議論を行える場を設けました。

参加者からの感想は、低平地での社会基盤整備の難しさ、研究の面白さに気づくことができたというものや、カントー大学の学生からはちょうど良い大きさのフィールドで勉強しやすいとの声も聞きました。今回のプログラムは5日間と極めて限られた期間ではありましたが、参加者間の意見交換は時間を経る毎に活発になり、活気のあるプログラムとなりました。佐賀が低平地研究の核となれるよう、今後も同様のプログラムを継続的に行っていきます。

末筆ではありますが、本プログラムの実施にあたり多くの皆様にご協力を賜りました。本稿にてお礼を申し上げます。



写真-3 参加者の集合写真



写真-4 見学の様子(㈱ワイビーエム岸山工場)

■2019年度活動計画

次年度も引き続き、世界の低平地における環境問題に関する講演会や勉強会の他、佐賀低平地ならではの環境技術の情報を国内外への発信する予定です。

- 1) 世界の水問題をテーマとした講演会
- 2) 協働研修プログラムの支援

地域創生専門部会

■平成30年度活動報告

(1) 中村與右衛門屋敷保存会

日 時：平成30年 7月31日(火)

場 所：佐賀県鹿島市七浦

講 師：大矢野栄次・鐘ヶ江社中（日本民謡協会）

参加者：約100名

共 催：中村與右衛門屋敷保存会

北前船の船主として有名な中村與右衛門氏は鹿島市七浦の人であり、いまでも與右衛門屋敷が残っています。七浦の人達から與右衛門屋敷の歴史的意味と意義について説明していただきたいという要望があったので、講演会・演奏会を行いました。有明海七浦の人達は、船を持ち、有明海のみならず、東シナ海で活躍する海の人達であったこと、徳川家康の海賊禁止令以来陸に上がった河童同様の人達は、幕府の御用船を預かる佐賀藩の船の担当者となり、やがて、大坂に出て、北前船を運用して莫大な利益を得たことを説明しました。これらのことは、長崎奉行所・徳川幕府と佐賀藩との関係や北前船と民謡牛深ハイヤ節から説明できることを講演会では鐘ヶ江社中の民謡を聴きながら解説しました。

(2) 見学会「佐賀の歴史」

日 時：平成30年 8月28日(火)～29日(水)

場 所：佐賀県内の歴史探索

講 師：大矢野栄次

参加者：26名

共 催：久留米大学地域連携センター

後 援：青森中央学院大学

青森中央学院大学からの「北部九州研修旅行」のために参加した研修学生・教員10人と久留米大学の学生・教員12と一般参加希望者4人を案内して、佐賀県内の吉野ヶ里、佐賀城本丸公園、肥前名護屋城の見学会を開催しました。

九州の筑後川と青森県の岩木川を比較して、自然の恵みと災害について説明し、自然環境や気候の相違が社会生活にもたらす影響について説明しました。

弥生時代の吉野ヶ里の説明においては、縄文時代の三内丸山遺跡と異なって、三内丸山遺跡では窺い知れない稲作文化圏の特徴としての村と村の争いという戦争が社会現象として現れることを1つのテーマとして説明しました。

肥前名護屋城に関しては、全国の戦国武将が佐賀の一角に突如として出現する歴史の問題に学生は大きな関心を抱いたようです。

また、佐賀城本丸公園においては、幕末の佐賀藩の文

化と技術についての説明に参加者は興味を示していました。

(3) 勉強会「筑後川と有明海の歴史と小石原ダム建設」

日 時：平成31年 2月16日(土)10:00～15:00

場 所：甘木小石原ダム建設現場見学

講 師：水資源機構事務局

参加者：17名

共 催：久留米大学地域連携センター

水資源機構が福岡県朝倉市江川に建設中である利水用のダム建設の見学会を行いました。小石原ダムは筑後川水系小石原川上に造られるロックフィルダムの九州随一のダムであり、完成するとゲートは自然調節方式であり、堤高139M、堤頂長約550M、総貯水容量4,000万m³です。本体着工は2016年であり、完成予定年は2020年です。

(4) マレーシア・サラワク州の低平地問題研究

本年3月8日、久留米大学とマレーシア・サラワク大学が交流協定を締結しました。この関係で、今後、サラワク州の河川問題や港湾設備、空港設備等の計画から山林の開発計画、環境維持などの諸問題について検討会を開催するように準備を進めています。

サラワク州のクチン市の周囲は河川水が150KM遡上する低平地であることから、低平地研究会の助力が必要となると考えています。

(6) 冊子刊行「佐賀人の知らない佐賀の人」

毎年発行している「佐賀とは何か」の第4弾として発行しました。

■2019年度活動計画

- ・現地（有明海と筑後川）の歴史・文化・環境についての現状調査と解説
- ・有明海沿岸域の経済構造の実態と将来構想の研究について続行する。
- ・この地域の文化・社会・経済・政治を理解して、地域創生とこの地域の国際化の両立を模索するための研究を続ける。
- ・有明海沿岸部等の低平地における社会基盤整備の現状や課題について調査・研究を行いたい。
- ・マレーシア サラワク州クチン市の周囲の低平地に関する調査・研究を低平地研究会として検討して行きたい。
- ・有明海沿岸域の経済構造の実態と将来構想の研究について続行する。
- ・この地域の文化・社会・経済・政治を理解して、地域創生とこの地域の国際化の両立を模索するための研究を続ける。

歴史・文化専門部会

■平成30年度活動報告

(1)講演会「佐賀藩の鷹狩りと低平地」

日 時：平成31年 2月21日(木)15：00～16：30
 場 所：佐賀大学附属図書館 4F 会議室
 講 師：伊藤 昭弘氏（佐賀大学地域学歴史文化研究センター副センター長）
 参 加 者：38名
 企画・主催：低平地研究会 歴史・文化専門部会
 共 催：久留米大学比較文化研究所 地域博物館研究部会

鷹・鷲を用いた狩猟は古くから世界各地で行われ、日本でも、古代から貴族や武士たちに愛好されました。江戸時代には、各地の大名が将軍へ鷹を進上し、幕藩関係を支えるツールのひとつとして存在しました。

佐賀藩に関する鷹狩りや鷹場（鷹狩りを行う狩場）の研究は皆無であり、本講演では、おもに佐賀藩初代藩主勝茂の鷹狩りについてご紹介していただきました。特に旧小城郡・杵嶋郡は、当時鶴の飛来地として有名であったということです。



講演会の様子

(2)史料翻刻及び解説

伊藤昭弘 編「古文書に見る鍋島直正の藩政改革（二）」



本史料集は、2015年に刊行した『古文書に見る鍋島直正の藩政改革』（佐賀大学地域学歴史文化研究センター）の続編で、「（請御意）」（天保10・1839年成立、鍋島報効会所蔵『鍋島家文庫』）を収録しました。史料名の「請御意」は、当時の佐賀藩主鍋島直正「御意」を「請」けるという意で、同史料は役人た

ちから藩主直正へ提出された上申書の写しと、それに対する藩主の回答で構成されています。従来までの鍋島直正研究は久米邦武著『鍋島直正公伝』に依拠するものが

多いが、『公伝』の記述内容には典拠が不明瞭なものもあり、本史料の検討により当時の佐賀藩政に関する新事実が明示される可能性を秘めています（解説参照）。

■2019年度活動計画

引き続き他専門部会と連携し、有明海沿岸地域を中心とした現地調査や史料の探求・公開及び外部講演などを行う予定です。